

8月の植物

オトギリソウ (オトギリソウ科)

学名 : *Hypericum erectum* Thunb.

植物にまつわる話はたくさんあり、植物の名を知る上で大変参考になる。佐賀植物友に入会した頃、教えていただいた記憶は今も残っている。先輩はオトギリソウの葉を摘み、太陽にかざし、「黒い点が無数にあるのは弟を切った時の血の跡だ」と。改めて調べてると「平安時代、鷹匠の兄弟がいて鳥の傷を治す妙薬の製法を秘密にしていたが、弟が秘密を漏らしたので、怒った兄は弟を斬り殺した。そのときの返り血が葉の黒点となった」とあり、和名の由来にもなっている。この仲間は佐賀県では10種類ほどが知られているが、葉に着く点（腺点）は、黒点や白点があり付方も様々で種の区別点にもなっている。

オトギリソウは、全国に分布するが、県内には山地の日の当たる路傍の草地によく見かける。茎は30 cm～70 cmで直立する。葉は先が丸く基部が最も広く、対生で茎を抱く。葉面には多くの黒点が散らばる。花は黄色5萼片、5花弁で共に黒点と黒線がある。雄しべ多数、雌しべ1個で3花柱を持つ。花期は6～8月。全草が止血、鎮痛の薬用に用いられ、ヒペリシンなどの成分が知られている。

(文責 井手義信)



唐津市七山 2021.8.1

参考文献：検索入門「野草図鑑⑧」(保育社)、薬草観察ハンドブック(倉成靖任)、
佐賀県植物目録-1981-野草の名前 夏(山と溪谷社)